

陳 情 第 36 号	令 6. 11. 13 受 理
(件 名) 鹿児島市公式 X 等の SNS における委員会の開催告知を求めることについて	
(陳情の要旨) 私たちは、鹿児島市議会が市民にとって身近な場であり、主権者である市民が積極的に市議会に監視の目を向けるべきと考える。 YouTube「学カフェ」内における永谷さよこ議員の発言が不適切であるという件に関して協議された議会運営委員会を過去3回傍聴した。議員や学カフェ視聴者である市役所職員からの連絡で議会運営委員会の開催を知り、傍聴に至っている。その中でも2024年9月30日に開催された緊急の議会運営委員会に関しては、大手メディア宛にも開始15分前にFAXが送付されている。30年以上鹿児島市議をされ、現在、鹿児島県議である小川みさ子議員が言うには、「大規模災害の場合においても、いまだかつてそのような緊急の議運はなかったのでは」とのことである。 一方で、NHK等が11月8日付で報じている「和泊町の医療法人における補助金不正受給問題にせぐち和浩議員が関与していたのでは」というニュースに関しては、その後議運が開催されたとの話は聞かない。協議事項の選出基準が非常に不明瞭であり、構成委員の恣意的・感情的なものであると言わざるを得ない。同ニュースは、2024年8月7日付の南日本新聞朝刊でも取り上げられている件であり、本日時点では議運の委員会記録の最新は7月29日開催分であるため確認はできていないが、内部通報により、「その後の議運でせぐち議員の弁明はあったが、数分で終わったのでは」と聞いている。開始15分前に告知した緊急の議運で新人議員のYouTubeにおける発言を指摘したかと思えば、マスコミが報じている事案について一週間経っても議運を開催しない場合もある。インターネット配信もされず、傍聴の人数制限もあるという現状では、市民がしっかりと傍聴に出向くしか市民の「知る権利」を行使するすべがない。 長々と書いたが、ついでには、「市民に開かれた議会」を実現するため、鹿児島市公式 X 等の SNS における委員会の開催告知について早急に対応いただくよう陳情する。	